

実践授業Ⅱ 小学校第5学年国語科学習指導案

指導月日 平成30年10月24日
所属校名 女川町立女川小学校
氏名 金子 宏

1 単元名「点画のつながり（ひらがな）」（東京書籍 新しい書写五）

2 単元の目標

- 点画と点画のつながりに注意し、平仮名を書こうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 平仮名を点画の書き方や点画のつながりを意識して書く。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の書写に関する事項のうち、「ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと」を受けて設定したもので、全3時間で構成する。平仮名3文字の言葉「きずな」を毛筆で書くことを通して、点画から点画へと移動していく過程における穂先の動きと点画のつながりについて理解させるとともに、書き始めから書き終わりまで無理なくつないで書き進める効率よい書写のリズムを習得させる。また、毛筆を使用した学習で身に付けた知識や技能を適用させる活動を設定し、日常生活や学習活動において点画相互のつながりを意識して書こうとする態度を養う。

これまで、児童は、毛筆を使用して書くことを通して点画や点画の書き方への理解を深めてきた。本単元では、点画の中での穂先の動きだけでなく、点画から点画へ移動していく過程に重点を置いて指導する。まず、点画の終筆が次の点画の始筆に向かうように筆を動かし、1文字を一連の動きで書き進めることを意識付ける。次に、新出の平仮名の点画である「結び」の書き方について指導する。その書き方を習得させたところで、再び点画と点画のつながりを意識させ、「きずな」3文字の清書に取り組ませる。単元のまとめで、フェルトペンを用いて俳句を視写させ、平仮名の特色である丸みを感じられる整った文字を書くことができるようにする。

4 児童の実態 [第5学年1組 男16名 女16名 計32名]

(1) I期の取組について

I期の「筆順と字形」の単元では「成長」を題材として、始筆どうしの接筆は、先に書く画が少し出るといふ書き方を意識して書くことを学習課題として提示して指導した。児童が清書した作品を分析したところ、「成」は、32人が指導した書き方に従って書くことができたが、「長」は、4名が1画目の始筆と2画目の始筆とが同じ位置に重なり、書き方に従って書くことができていなかった。これは、児童の学習課題の理解が一様ではないことや、教師の学習過程における評価や支援が不十分であったことによると考える。授業中に、児童それぞれの学習課題への取組状況を適切に把握し、効果的な指示や助言を与えることが、指導上の課題として挙げられる。

(2) レディネス調査

本学級の児童を対象として、7月に点画のつながりに関するレディネス調査を行った。あらかじめ書かれている平仮名に、点画から点画へ移る時の筆記具の動きを鉛筆で書き込ませる調査である。

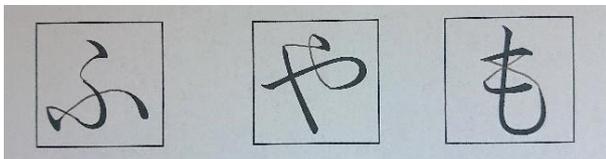


図1 点画のつながりを正しく書いている例

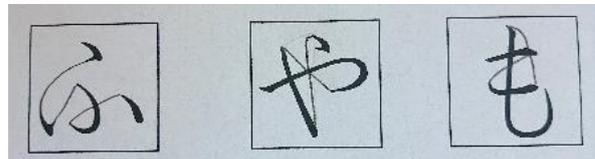


図2 点画のつながりを正しく書いていない例

レディネス調査の結果、点画のつながりを正しく書いている児童は「ふ」で11人（34.4%）、
「や」で12人（37.5%）、「も」で7人（21.9%）であり、筆順を正確に理解し、点画のつながり
を正しく書くことができる児童が少ないことが分かった。

筆順に従って文字を正しく書くことは、書写の指導における基本的な事項であり、文字の形や書
く速さにも密接に関わることであるので、繰り返し指導する必要があると考える。

5 指導観

(1) 授業内容について

書写の指導は、身に付けた知識や技能を、日常生活や学習活動につなげていくことが重要である。
第1時・第2時は「きずな」を題材とし、毛筆を用いて、点画のつながりや「結び」の書き方につ
いて指導する。第3時は前半に、前時までの毛筆を用いた学習内容を確認し、その後、フェルトペ
ンを用いて、読むことの領域「詩を味わおう」の単元で扱った俳句を短冊に視写する活動を設定す
る。この単元の構成を、単元の冒頭で児童に提示することで、学習に見通しを持たせる。単元を通
して点画や点画のつながりの書き方を視覚的に把握させるために、5種類の文字を書く様子を撮影
した動画（以下、手本動画という）を電子黒板及びタブレット端末で再生できるようにし、児童の
学習課題の到達状況に応じて動画を選択し、視聴させる。

第1時では、穂先の動きと点画のつながりを理解して書くことを目標として指導する。まず、黒
板に拡大した紙媒体の手本を掲示し、「きずな」の3文字を空書きさせ、筆順を復習するとともに、
点画と点画のつながりを意識させる。次に、毛筆で文字を書く際には、「墨を付け足さずに一文字
を書ききること」「次の点画に向かうように筆を送ること」「点画の終わりで筆を立て、そのまま
次の点画に移ること」の3点が重要であることを確認し、「きずな」の3文字を続けて書く様子を
真上から撮影した動画を電子黒板で再生し、前記の3点を具体的に把握させる。その後、個別に練
習させたところで、隣席の児童とペアをつくらせ、タブレット端末のカメラ機能を活用し、書く様
子を互いに撮影させる。ペアでその動画を視聴することにより、つながりを意識して書くことが
できているかを振り返らせるとともに、点画のつながりの書き方を言語化して伝え合わせることに
より、書き方の要点を捉えさせ、自分の書き方の改善点に気付かせる。授業終了後、撮影した動画
を教師が全て確認し、それぞれの児童の到達状況を把握し、次時の個別の支援の計画を立てる。

第2時では、平仮名の点画の一つである「結び」の書き方を理解、習得し、点画の書き方や点画
のつながりを意識して書くことを目標として指導する。まず、第1時で学習した穂先の動きや点画
のつながりの書き方の3点について確認し、児童が点画のつながりを意識して練習に取り組めるよ
うにする。次に、「きずな」の3文字における新しい点画の書き方ほどの部分かを児童に問い、本
時で新たに学ぶ「結び」の書き方に注目させる。続いて、「ず」「な」の「結び」の書き方の動画
を電子黒板で再生し、「方向を変える際に筆を止める」「筆の軸を回さずに、穂先だけ裏返す」の
2点を視覚的に把握させる。その後、個別に練習させたところで、第1時と同様にペアをつくり、
タブレット端末の録画機能を活用し、書く様子を互いに撮影させる。その動画を視聴しながら、
「結び」の書き方を言語化して伝え合わせることで、その理解を深めさせる。授業終了後、児童が
撮影した動画を全て確認し、それぞれの児童の到達状況を評価する。

第3時では、点画と点画のつながりを意識してフェルトペンで文字列を書こうとすることを目標
として指導する。前半と後半に分け、前半を毛筆の清書の時間、後半をフェルトペンでの清書の時
間にする。前半の始めでは、前時までに学習した点画と点画のつながりと「結び」の書き方を確認
し、補助線や概形を書いた紙媒体の手本を配布し、児童が第1時と2時で学んだ書き方を意識付け
た上で、「きずな」の清書に取り組ませる。後半の始めには、硬筆でつながりを意識して書いてい
ない「ら」とつながりを意識して書いた「ら」を提示し、児童にその違いを考えさせ、硬筆でもつ
ながりを意識して書くのと整った字を書くことができることを捉えさせる。さらに、フェルトペン
で「きずな」を書いた動画を視聴させ、硬筆における点画のつながりの書き方を理解させる。その上

で、教師が指定した平仮名で表した俳句を、児童にフェルトペンで画用紙に視写させる。授業終了後に、児童が清書した画用紙を色画用紙に貼り付け、短冊として廊下の壁面に掲示する。

(2) 第Ⅰ期を踏まえた指導方法について

第Ⅰ期では、誤った筆順で文字を書き、正しい画の接し方に従って書くことができていなかった児童が多かったにも関わらず、授業中にその児童の学習状況に気付くことができず、適切な支援を行えなかった。そこで、児童全員が学習課題を達成できるように、児童の書く様子を撮影した動画から見取った児童の到達状況を座席表に書き込み、児童の実態に応じた的確な指導・支援に生かすこととした。

(3) 教室環境について

本単元の学習は普通教室で行う。32名の児童が毛筆を行う際、教室内で作品を置くスペースや教師が動くスペースは十分ではない。半紙や練習用紙をあらかじめ児童の机に入れておくことで、児童が教室内を移動する場面を最小限にとどめ、スペースを確保する。

(4) ICTの活用について

ICTとして電子黒板とタブレット端末を使用する。電子黒板は、手本動画や児童の書く様子を撮影した動画を映し、学習課題の共有や振り返りに使用する。タブレット端末は、児童が手元で手本動画を再生したり、児童が互いに書く様子を撮影したりするのに使用させる。

児童が使用するタブレット端末には専用のケースが付けられており、机に置かれた紙媒体の手本の上のスペースにタブレット端末を立てた状態で設置し、机の上でタブレット端末を使用できるようにする。

(5) 紙媒体と電子媒体の手本について

本単元では、文字の大きさや配置は主たる指導事項ではないことから、次の2種類の紙媒体の手本を作成・配布し、学習課題に取り組みさせる。

- ・半紙に縦線を均等に3本引いたところに、「きずな」と書かれているもの。
- ・概形が記されているところに、「きずな」と書かれているもの。

また、指導観で述べた5種類の手本動画の内容や活用方法、動画を視聴させる対象の児童は以下の表のとおりである。



図3 きずなを書く位置

表1 手本動画の内容

動画名 (時間)	内容	対象児童	活用場面
動画1 【毛筆】 真上から撮影した手本動画 (1分2秒)	「きずな」を書く様子を真上から撮影した動画である。朱墨と墨を筆につけ、墨が穂先の動きを表すように書いている。	全ての児童 (一斉, 各自)	全体で、点画のつながりの書き方を振り返るために視聴させる。児童が練習する際に活用する。
動画2 【毛筆】 横から撮影した手本動画 (1分3秒)	「きずな」を書く様子を横から撮影した動画である。朱墨と墨を筆につけ、墨が穂先の動きを表すように書いている。	点画の終わりが次の点画に向かっていない児童	点画のつながりを意識させるために、書いている様子を横から撮影した動画を視聴させる。
動画3 【毛筆】 「ず」「な」の「結び」の書き方の動画 (36秒)	「ず」と「な」の「結び」の書き方を3回ずつ練習する様子を撮影した動画である。「結び」の途中で筆を止める動作を強調している。	手首を曲げて「結び」を書いている児童。	「結び」の書き方を確認するために視聴させる。動画を見ながら、対応している練習用紙を使って、練習に取り組ませる。
動画4 【毛筆】 「結び」の失敗例の動画 (15秒)	「ず」を書く様子を撮影した動画である。「結び」で、方向を変える際に筆を止めず書いている。手首を回転して書くことを強調している。	全ての児童 (一斉)	あえて、「結び」の書き方を守っていない動画を見せ、間違いに気付かせ、「結び」の書き方を確認させる。
動画5 【硬筆】 硬筆の手本動画 (21秒)	「きずな」を続けて書く様子を近くで横から撮影した動画である。点画のつながりを意識させるため、ゆっくり書いている。	全ての児童 (一斉, 各自)	点画のつながりを硬筆でどのように表すか、児童に捉えさせるために視聴させる。

6 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ 文字を正しく整えて書く力を高める授業づくりを目指して

— 小学校国語(書写)におけるICTの活用場面の工夫を通して —

(2) 研修課題との関連

I C Tの活用場面を工夫することで、文字を正しく整えて書く力を高める。I C Tの活用場面は以下のとおりである。

① 学習課題をつかむ場面

ア 手本動画を電子黒板で再生し、穂先の動きと点画のつながりの書き方に気付かせ、その書き方を学習課題に設定する。

イ 手本動画を電子黒板で示し、新出事項の平仮名の書き方である「結び」に気付かせ、練習に取り組ませる。

② 学習課題の解決に向かう場面

ア 「な」を誤って書いている動画を児童全員に視聴させ、点画のつながりの書き方を確認する。確認した書き方を板書し、常に意識して課題解決できるようにする。

イ タブレット端末で手本動画を再生できるようにし、穂先の動きや点画のつながり、「結び」の書き方を確認させる。

ウ 児童の「きずな」を書く様子を児童同士で撮影させて残しておき、教師の評価と指導に活用する。

③ 教え合い学び合いの場面

ア 児童同士で撮影した動画を教師が選択し、電子黒板に映して全体に示すことで、点画のつながりや「結び」の書き方について児童全員で再度共有する。

イ 児童が互いに「きずな」を書く様子を撮影し、その動画を視聴することで、自分の書き方を振り返らせ、改善点に気付かせる。

7 単元の指導と評価の計画（3時間扱い 本時2／3）

時	ねらい	主な学習活動	評価規準
1	穂先の動きと点画のつながりを理解して書く。	<ul style="list-style-type: none"> 毛筆で学習したことを生かし、フェルトペンで俳句を書く単元の構成、学習活動の展開を捉える。 手本動画（動画1）を電子黒板で見ながら、点画のつながりの書き方を理解する。 毛筆で「きずな」を試し書きし、穂先の動きや点画のつながりの書き方を習得する。 正しい書き方で書いている児童の動画を見て、点画のつながりの書き方を振り返る。 	◎「墨を付け足さずに一文字を書ききること」「次の点画に向かうように筆を送ること」「点画の終わりでは筆を立て、そのまま次の点画に移ること」の3点を意識して書いている。【言語についての知識・理解・技能】
2 本時	「結び」の点画の書き方を理解して、点画の書き方や点画のつながりを意識して書く。	<ul style="list-style-type: none"> 穂先の動きや点画のつながりの書き方を確認する。 「結び」の書き方を動画で確認し、練習用紙を使って練習する。 互いの書く様子を撮影し、「結び」の書き方に従って書いているか確認し、改善点を言語化する。 撮影された動画を見て、つながりの書き方に関しての自身の振り返りを行う。 	◎「結び」の書き方である「方向を変える際に筆を止める」「筆の軸を回さずに、穂先だけ裏返す」の2点を意識して書いている。【言語についての知識・理解・技能】
3	フェルトペンで点画と点画のつながりを意識して書こうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 点画のつながりと「結び」の書き方を意識して「きずな」を清書する。 点画のつながりを意識した「ら」と意識していない「ら」を見て、点画のつながりを硬筆に生かす必要性に気付かせる。 	◎フェルトペンで点画と点画のつながりを意識して書こうとする。【国語への関心・意欲・態度】

	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の俳句をフェルトペンで視写する。 ・点画のつながりを意識するよさを具体的に捉える。 	
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

8 本時の計画

(1) 目標

「結び」の点画の書き方を理解して、点画の書き方や点画のつながりを意識して書く。

(2) 本時の指導に当たって

目標へ到達するために、次の3つの場面を設定し、手立てを講じる。

① 学習課題をつかむ場面

手本動画（動画3）を電子黒板で再生し、「方向を変える際に筆を止める」「筆の軸を回さずに、穂先だけ裏返す」の2点を視覚的に把握させる。その際、手を穂先に見立て、児童に空書きさせることで、「結び」の書き方を身体的に捉えさせる。

② 学習課題の解決に向かう場面

児童の学習課題の到達状況に応じて、児童の動画1～3を選択して視聴したり、かご書きや「結び」の練習用紙を活用したりするなど、練習方法を選択して課題解決に取り組ませる。

③ 教え合い学び合いの場面

ペアをつくり、タブレット端末で書く様子を互いに撮影させる。撮影した動画を視聴しながら、「結び」の書き方を言語化して伝え合わせることで、その理解を深めさせる。

(3) 指導過程

段階 時間	学 習 活 動 ◎主な発問, 指示 ○発問・指示 ・児童の反応	指 導 上 の 留 意 点 ◇留意点 (視点) ※評価
つ か む 8 分	<p>1 前回の学習内容を振り返る。</p> <p>○前回、点画のつながりを意識して書きましたが、ポイントは何でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一文字一墨です」 ・「筆は立てたままです」 ・「点画が次の点画に向かうです」 <p>2 本時の学習課題を設定する。</p> <p>○「きずな」で初めて習う筆使いはどこでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『ず』の2画目かな」「『な』の4画目もかな」 <p>○それは筆使いの中で、「結び」と言います。結びを課題として設定しましょう。</p> <p>「結び」の筆使いを意識して書こう。</p> <p>○それが「結び」という筆使いのポイントです。結びの筆使いを意識して、「きずな」を書きましょう。</p>	<p>◇どの場面においても、点画のつながりを意識した書き方を想起できるように、黒板に記入する。</p> <p>◇児童の言葉から課題を設定するように、点画の新出事項が何かを意識させる。</p>
確 か め る 7 分	<p>3 手本動画（動画3）を電子黒板に映し、「結び」の書き方に気付かせる。</p> <p>◎「す」「な」の丸い部分を書く時の筆使いのポイントは何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「方向を変える時に筆を止めています」 ・「穂先が裏返っています」 <p>○結びの筆使いを手で一緒に確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向を変える前に筆を止めることと、筆の軸を回さずに、穂先を裏返すことを確認する。 <p>4 2枚の練習用紙を使って練習する。</p> <p>○タブレット端末の「結び」の筆使いを見ながら、練</p>	<p>◇児童が書き方を言語化しにくい時は、「方向を変える時にどんなことをしていますか」「穂先の動きはどのようになっていますか」と具体的に問う。</p> <p>◇「結び」の書き方がイメージしやすいように、手を使って筆の動きを再現させる。</p> <p>◇「結び」の書き方に注目させるため、タブレット端末の動画を</p>

	習用紙で練習しましょう。 ・タブレット端末の手本動画を再生、一時停止して書き方を確認しながら、練習に取り組む。	再生、停止させ自分のペースで書かせる。
広 げ る 25分	5 練習方法を選択して課題解決に取り組む。 ◎点画のつながりを意識して練習しましょう。 ・手本動画を見て半紙に練習したり、かご書きの練習用紙で練習したりする。 6 互いに書く様子を撮影し、その動画を視聴することで、課題を明確にする。 ○互いの書いている様子を撮影しましょう。 ○自分の筆使いは、結びを意識して書いていますか。 ・「手首を回していたな」 ○動画4を見て、改善点を見付けましょう。 ・「手首を固定する」 ・「方向を変える際に筆を止める」 ○自分の課題を意識して練習に取り組みましょう。	◇児童の状況によって、動画1，2，3を児童に選択させたり、教師が選んだりする。 ※毛筆で、「方向を変える際に筆を止める」「筆の軸を回さずに、穂先だけ裏返す」の2点を意識して書いている。（作品・動画）【言語についての知識・理解・技能】 ◇あえて失敗例を見せ、児童に改善点を見付けさせることで、「結び」の書き方を振り返らせる。
ま と め る 5 分	7 タブレット端末に保存した作品と本時の作品を比較する。 ◎結びの筆使いのポイントに従って書けましたか。また、他によく書けたところを言葉にしましょう。 ・「結びで筆を止められたな」 8 次回の予告をする。 ○次回、フェルトペンで俳句を書きます。 ・「楽しそうだな、頑張ろう」	◇「結び」の書き方を意識することで、字がどのように変わるか全体に示すため、練習後に大きく文字が変容した児童を選択する。 ◇実物の例を提示し、次回への期待感を持たせる。

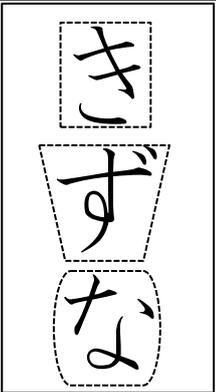
(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する児童への手立て
言語についての知識・理解・技能	「結び」の点画の書き方を理解して、点画の書き方や点画のつながりを意識して書く。	毛筆で、「方向を変える際に筆を止める」「筆の軸を回さずに、穂先だけ裏返す」こととつながりの書き方を意識して書いている。	動画3を見せ「結び」の書き方を確認し練習させる。

(5) 準備物

電子黒板、「きずな」の手本、「きずな」のかご書きの練習用紙、「結び」の書き方の練習用紙
 タブレット端末35台（動画1～3を再生できるようにしておく）

(6) 板書案

課題 結びの筆使いを意識して書こう。	「結び」 ・方向を変える時に筆を止める。 ・ほ先をうら返す。		点画のつながりのポイント 一．一文字一すみ 二．点画が次の点画に向かう 三．筆は立てたまま
-----------------------	--------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------